

ウサギコウモリはその名のとおりウサギのような非常に大型の耳を持つ、ユーモラスなコウモリの仲間。体は42～58mm、前腕の長さは40～58mm、尻尾の長さは42～55mmと小型で、体重は7.8～10.7gほど。全体に薄茶色から灰褐色をしている



キープ協会



<http://www.keep.or.jp>

1948年に故ポール・ラッシュ博士によって創設された1938年に建設された清泉寮を中心に「食糧」「信仰」「保健」「青年への希望」を掲げ、実践的なモデル農村コミュニティづくりを目指して設立された。

現在、博士の理想と実践を引き継ぎ、4つの理想に加え「環境教育」「国際協力」に取り組んでいる。

キープ自然学校では「大自然がまるごと教室」とレンジャーがさまざまな体験プログラムを提供(☎0551-20-7701)。キープ・フォレストーズ・スクールではレンジャーが清里の自然を紹介、また年18回程度の宿泊型主催プログラムと日帰りから宿泊型までの受諾プログラムを実施(☎0551-48-3795)。

や、銀マットなどを用意して、快適にじっと待てるようにしておくのがポイントだ。

その場でヒマワリの種をかじるものもいれば、すぐに別の隠し場所に運んでいくものもある。何分おきぐらいいでてくるのか、でてくる野ネズミは同じネズミか、どんな行動のくせがあるのか……じっくりと観察していても興味はつきない。

野ネズミたちが活動する時間になれば、それをねらう動物たちも動き出す。キツネ、テン、フクロウ……。夜の闇の中で彼らを観察することはとても困難だ。人が彼らに気づく前

さけるからだ。彼らの目は、人の目よりもはるかによく見える。何しろ、すばやく動き回る野ネズミをあとという間につかまえるのだから。

森のそばに、ひろがる草原がある時は、キツネやフクロウはそこを狩りの場所に使うことがある。そんな場所では、暗闇の中では困難だが、明け方など運がよいと狩りの姿が見られることがある。

最近では、野生動物の観察会を行う施設やフィールドもいくつかある。強力ライトで森を照らすことで姿を確認する形や、ムササビのように巣から飛び立つところをねらう観察会もある。ムササビはその棲んでいる巣穴さえ確認されていれば、巣からとびたつ時間に待つことで、その姿を観察しやすい野生動物だ。「空とぶ座布団」と表現する人もいるが、意外に大きく、そのシルエットにはハッとさせられる。

夜、動物たちと出会うことは非常に困難なことである。しかし、食痕(何かをたべた痕)やフン、足跡などのフィールドサインを見つけることで、確かにそこにいたこと・少なくとも数日前あるいは数時間前にはそこにいたことがわかる。日本の森には、多くの野生動物が、同じ空間を異なる価値観で暮らしている。夜の闇のそのむこうに、確かに彼らがいることを知るだけでも夜の闇を見る時の意識は、大きく変わる。

キープ協会の自然観察会

自由研究に最適!! 野ねずみちゅうちゅう会に行こう

▽8月14日(火)の13時30～15時
および19時30～20時45分

▽対象は小学生以上のご家族・一般

▽参加費は中学生以上2500円、小学生以下2000円

▽内容は森のネズミの巣穴探しや夜のネズミ観察をする

●問い合わせ・申し込み

(財)キープ協会

☎0551-48-3795 / Fax0551-48-2990